

2024年4月9日（火）

老球の細道788号

春風駘蕩バスケ三味の2週間

会津バスケットボール協会 室井 富仁

小中高校と入学式、始業式が行われ新しい年度がスタートした。梅、桜も子どもたちの心機一転を後押しするよう、あちこちで綺麗に花を咲かせ始めた。現職だった頃は、3月末の会津フェスティバルをスタートに、春休みは県内外を問わず遠征試合と自校での練習試合に明け暮れて、新年度の高体連地区予選、県大会に向けて準備をしていたものである。

今年のこの時期も、久しぶりにバスケットボール三味の幸せな日々を送ることができた。教員の人事異動の原則ではないが「浜中会津」地区の3つの高校におけるクリニック、郡山の孫たちのミニバスケット練習試合観戦、そしてBリーグ福島ファイヤーボンズホームゲームのゲームダイレクター業務と2週間に渡って「教育（今日行く）」と「教養（今日用）」が充実した。

人生は楽あれば苦あり。幸福は自然、不幸は突然。昨日会津体育館におけるBリーグの仕事を終えて幸福の余韻に浸りながら自宅に帰った。まだ陽が高く、うららかな陽気だったために日課のウォーキングをサイクリングに変えた。「調子の良い時は変えるな」は戦術の原理原則である。10年ぶりに自転車にまたがった。昨年相馬の祖母からいただいた3段変速の婆チャリである。バランスを取りながら気持ちよく乗り家に帰って来た。悲劇は油断と共に忘れた頃にやってくる。自転車から降りる時にバランスを崩し転倒してしまった。運悪く頭を打ってしまったが、幸運にも擦り傷程度で済んだ。

【高校クリニック雑感】

磐城高校、須賀川桐陽、会津高校と3つの高校チームからクリニック依頼を受けた。3チーム共現在県内では中の上くらいのランクであるが、これからの高体連大会において下克上を狙う有望なチームであった。

現在高校スポーツはバスケットに限らず色々な競技で、有望選手を全国からリクルートできる私立高校が上位を占める中、是非地元の選手で固める公立高校チームがアップセットを起こすことをクリニックで要望した。そのためには、ファンダメンタルの飽くなき徹底とタレントに頼らないチームプレイの駆使、そしてそれらをスムーズに発揮するための日々の練習による努力を強調した。

コーチの本来の仕事は、日々の練習で準備したドリルを使い選手、チームを向上させることである。そのために準備を徹底して笑顔でコートに立つ。クリニックでできただろうか。

【Bリーグダイレクター雑感（福島ファイヤーボンズ対越谷アルファーズ）】

今年度初めての会津開催。二日間共に2,000人位の観客数があった。日本でのバスケット人気が確実に地方まで浸透していることが実感できた。何と云ってもわが孫達が初めて観戦する気になったのである。途中で帰るのかと思ったら最後まで見届けていた。プロのゲームを身近で見れる時代である。百聞は一見に如かず。見る、見る、みるみる上手くなる。